

# 財団法人さんりく基金平成 21 年度事業実施状況

## 1 基本方針

平成 21 年度は、県内市町村等の個性ある地域振興を図るための主体的な取組みを支援するとともに、三陸地域の特色を活かした地域振興を図るための調査研究を支援した。

さらに、県政の重要課題である県北・沿岸振興に資するための取組みを支援するとともに、財団としても地域振興に資するための自主事業に取り組んだ。

## 2 事業別の実施状況

### (1) イベント開催助成事業

#### 県内各地域で開催されるイベント等への助成

〔目的〕 地域の特性を生かした市町村等の主体的な取組による個性ある地域振興を図る事業を支援する。

〔実施状況〕 城下盛岡うまいもの市  
(助成額 7,000,000 円)

合 計 7,000,000 円

(別添資料 1 参照)

### (2) 調査研究事業

#### 三陸地域をテーマ・フィールドとした調査研究への支援

〔目的〕 三陸地域における産業、自然、歴史、文化等の特徴を踏まえつつ、地域課題に対応した調査研究への助成を行う。

〔実施状況〕 奨励研究 5 件 (助成総額 1,499,926 円)  
課題解決研究 8 件 (助成総額 6,744,540 円)  
共同研究 4 件 (助成総額 4,216,000 円)

(別添資料 2 参照)

#### 年報、機関誌「三陸総合研究」の発行

〔目的〕 年報にて財団の紹介を行い、また、地域振興の情報や調査研究の成果を機関誌に掲載し、市町村、試験研究機関、地域づくりリーダー等へ広く提供する。

〔実施状況〕 平成 21 年度「年報」 450 部発行 (平成 21 年 9 月 1 日発行)  
「三陸総合研究」第 34 号 200 部発行 (平成 21 年 2 月 1 日発行)

### (3) 県北・沿岸振興支援事業

#### 県北・沿岸圏域における産業の振興及び交流人口の拡大に向けた取組みに助成

〔目的〕 調査研究事業や大学、試験研究機関等の既存の研究成果を実証し産業化を進めるほか、県北・沿岸圏域の域内又は海外や他都道府県を含む圏域外との人的・物的な連携・交流を進めるための事業を支援する。

〔実施状況〕 調査研究成果等活用促進事業 3件（助成総額 3,600,000円）  
観光総合産業化モデル支援事業 5件（助成総額 9,142,970円）  
(別添資料3参照)

### (4) 自主事業

#### 岩手県内における格差に関する調査研究事業

〔目的〕 ジニ係数を用いた内陸圏域と県北・沿岸圏域の格差要因の分析結果を活用して、市町村に働きかけ、三陸地域の縦軸連携にとっての課題を探る。

〔実施状況〕 本県の内陸地域と県北、沿岸地域の沿岸格差をジニ係数を用いて時系列的に数値化し、地域間格差をもたらしている諸要因を明らかにし、地域ごとに取り組むべき政策課題を探る報告書として「岩手県内の地域間格差について」を各関係機関に配布（H22.4）し、それぞれの活動主体が取り組むべき課題解決等の参考としてもらう。

※事業費は事務費対応（報告書印刷に係る経費平成22年度支出）

#### 海洋関係研究機関ネットワーク構築事業

〔目的〕 海洋基本法制定（H19.7）等海洋研究の重要性が高まる中、三陸沿岸の研究機関のネットワーク構築と連携強化を図り、沿岸振興を海洋研究の面から推進する。

〔実施状況〕 ・教育普及等を目的としたセミナーの開催（H21.6.27 大船渡市 450人参加）  
・さんりく沿岸海洋産業セミナーの開催（H21.10.27 釜石市 110人参加）  
・各研究機関の研究成果報告会の開催（H22.1.28 大槌町 24人参加）  
・海洋関係研究機関の研究者データベースの更新運用  
・いわて海洋研究コンソーシアムへの参画

ネットワーク形成、海洋環境研究、海洋バイオテクノロジー研究、海洋資源エネルギーの活用推進などのプロジェクトが効果的に実施されるよう、構成員間の連絡調整、連携強化を図る。【構成：海洋・水産に関する主要な産学官機関24機関】

事業費 46,500円（会議出席旅費）

(別添資料1)

平成21年度イベント開催助成事業

(単位：円)

事業名	事業の内容	実施主体	助成額 (事業費)
城下盛岡うまいもの市	<p>県内の歴史文化や産業を全国にアピールするとともに交流人口の拡大を図り、産業の活性化を図るため、盛岡市を中心とした県内各地の「市」、「産直」及び食に関連する団体・企画を結集したイベントを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・開催日 10月17日(土)・18日(日)</li><li>・会場 盛岡城跡多目的広場、芝生広場</li><li>・来場者 30,708人(目標40,000人)</li><li>・出店者数 60団体、113ブース (うち三陸沿岸8団体、18ブース)</li><li>・イベントツアー うまいもの市開催のプレイベントとして10/6大船渡・陸前高田コース(22人参加)と10/8久慈コース(27人参加)で「道の駅」などを巡るバスツアーを行った。</li></ul> <p>チラシ作成、テレビ、ラジオ、新聞広告や情報誌への広告、ホームページによる情報提供等</p>	城下盛岡うまいもの市実行委員会	7,000,000 (11,838,325)

## (別添資料2)

## 平成21年度調査研究事業一覧

## (1) 奨励研究5件

(単位：円)

	研究者	研究題目・目的・期間	基金助成額
①	北里大学海洋バイオテクノロジー釜石研究所 部長補佐 笠井 宏朗	題目：三陸地域における酵母株の収集と有用機能探索 目的：三陸地域の海洋試料などから有用機能を有する酵母株を収集し、実用化の可能性を検証する。	299,926
②	一関工業高等専門学校 准教授 渡邊 崇	題目：三陸産ウニの高付加価値化・有効利用に関する研究 目的：三陸産ウニに環境ストレス（高浸透圧ストレスと低酸素ストレス）を与えることで可食部の呈味を向上させ、高付加価値化する。一方、廃棄物として多量に発生する非可食部（主に殻）から血圧降下ペプチドが得られるか検討し、有効利用を図る。	300,000
③	北里大学海洋生命科学部 講師 水澤 寛太	題目：エゾアワビの視物質の同定 目的：三陸沿岸において最も重要な水産生物の一つであるエゾアワビの視物質を同定することにより、養殖施設における光環境を改良し成長速度を向上させることを目指す。	300,000
④	北里大学海洋生命科学部 講師 三宅 裕志	題目：三陸沿岸におけるミズクラゲ類の生態について 目的：漁業被害を与えるキタミズクラゲおよびミズクラゲの野生生態を明らかにする。	300,000
⑤	北里大学海洋生命科学部 講師 三宅 裕志	題目：三陸沖の海底資源探索の試み 目的：三陸沖の深海底に眠る石油資源の可能性をさぐるために、石油物質が浮き上がって形成されるオイルスリックが定期的に見られる場所を衛星画像を用いて探索する。	300,000
		基金助成額計：1,499,926円	

## (2) 課題解決研究8件

(単位：円)

	研究者	研究題目・目的・期間	基金助成額
①	NPO法人いわて地域づくり支援センター 常務理事 若菜 千穂	題目：田野畑村における生活交通確保方策に関する調査研究 目的：田野畑村で実験運行を予定しているデマンド型交通の実験結果の検証を行うとともに、三陸地域の市町村に対してアンケート調査等を実施し、他市町村の実態を照査した上で、他市町村での導入の可能性と効果を検証する。 期間：平成20年度～平成21年度	900,000
②	北里大学海洋生命科学部 教授 児玉 正昭	題目：麻痺性貝毒の簡易測定キットの開発 目的：実用性のある麻痺性貝毒の簡易測定キットを開発し、これを商品化する基礎を築く。 期間：平成20年度～平成21年度	990,000

	研究者	研究題目・目的・期間	基金助成額
③	一関工業高等専門学校 教授 二階堂 満	<p>題目：コンバージミルを用いた廃棄貝殻の有効利用</p> <p>目的：三陸の廃棄貝殻の有効利用を目的とし、廃棄貝殻に他の原料を混合、高エネルギー付加型粉碎機（コンバージミル）でメカノケミカル粉碎し、機能性材料（ハイドロキシアパタイト）を合成することを目的とする。</p> <p>期間：平成21年度～平成22年度</p>	492,800
④	北里大学海洋生命科学部 准教授 森山 俊介	<p>題目：サケ頭部残滓からの機能性成分を高度有効利用した魚類の増養殖技術の開発</p> <p>目的：サケ頭部の未利用資源から調製した魚介類の成長や成熟を促進する成長促進エキスおよび成熟促進エキスを配合した機能性飼料を開発して有効性および効果を観賞魚を含む増養殖対象魚種について実証し、これを高度有効活用することにより魚類の生産性を向上させる新技術を開発する。</p> <p>期間：平成20年度～平成21年度</p>	1,000,000
⑤	北里大学海洋生命科学部 講師 山田 雄一郎	<p>題目：岩手県沿岸におけるサケ幼稚魚の餌料環境の解明</p> <p>目的：放流稚魚の生残率を増加させ親魚の回帰率を高水準に保つために、動物プランクトンの群集組成と生物量の季節的変化を精査することで沿岸域におけるサケ幼稚魚の餌料環境を解明する。</p> <p>期間：平成21年度～平成22年度</p>	591,740
⑥	岩手大学農学部 准教授 三浦 靖	<p>題目：甲子柿の最適な燻蒸脱渋方法および渋戻り抑制方法の開発</p> <p>目的：甲子柿（小枝柿を燻蒸脱渋した柿）の優位性を高め、生産歩留まりを向上させる最適な燻蒸脱渋方法を確定し、生産者に広く活用を促す。さらに、賞味期間を延長させる保存方法や渋戻りしない加工技術を検討し、販売および加工領域のビジネスチャンスを創出する。</p> <p>期間：平成20年度～平成21年度</p>	770,000
⑦	岩手大学工学部 准教授 高木 浩一	<p>題目：パルスパワー技術の高度利用によるさんりくブランドきのこの収穫量改善</p> <p>目的：パルスパワー技術を利用して簡便な高電圧短パルス発生装置を開発し、きのこへの電気刺激による生産性向上を図る。多品種きのこの安定収量の確保や増収をもとに、きのこ関連業者を中心に、地域の活性化をはかる。</p> <p>期間：平成20年度～平成21年度</p>	1,000,000
⑧	岩手大学農学部 准教授 木村 賢一	<p>題目：三陸沿岸に生息する海藻由来の疾病の予防や治療に有効な物質の探索</p> <p>目的：三陸沿岸に生息する、特に未利用の海藻類から人間の各種疾病に対して予防や治療効果を有する、構造や活性において新しい低分子機能性物質（バイオプローブ）を探索し、その単離精製、構造決定、並びに作用メカニズムの解析を行い、特許申請の後企業と共に開発の可能性を探る。</p> <p>期間：平成21年度～平成22年度</p>	1,000,000
		基金助成額計：6,744,540円	

## (3) 共同研究 4 件

(単位：円)

	事業者 研究者	研究題目・目的・期間	基金助成額 (全体事業費)
①	北日本水産株式会社 代表取締役 古川 末広 (大船渡市)  北里大学海洋生命科学部 教授 高橋 明義	題目：稚ナマコを食害する有害プランクトンの フィルター技術による除去 目的：ナマコの種苗生産においては、稚ナマコ が有害プランクトンの一種コペポーダの 食害を受けて、生残率が著しく低下する ことが大きな問題である。本研究では、 フィルターシステムにより海水中に含ま れるコペポーダを除去し、ナマコの安定 生産に寄与する。 期間：平成 20 年度～平成 21 年度	1,200,000 (1,500,000)
②	久慈琥珀株式会社 代表取締役社長 向 正彰 (久慈市)  岩手大学教育学部 准教授 田中 隆充	題目：琥珀の新たなイメージを開拓する新規琥 珀デザインとその商品開発 目的：琥珀製品の購買促進のために、ジュエリ ー等の高級品だけにとらわれない従来の 琥珀のイメージを脱却した新規性の高い 商品開発のためのデザイン開発を行い商 品化する。 期間：平成 21 年度	1,200,000 (1,564,398)
③	株式会社丸辰カマスイ 代表取締役会長 田代 勝男 (釜石市)  岩手大学農学部 准教授 三浦 靖	題目：三陸沿岸漁獲のイサダ（ツノナシオキア ミ）を利用した機能性素材の開発 目的：三陸沿岸漁獲のイサダ（ツノナシオキア ミ）を原料にして、(1)筋肉および内臓か らタンパク質分解酵素製剤（食品加工助 剤と品質改良剤）、(2)甲殻から栄養機能 性素材（キチン、グルコサミン類）の製 造技術の確立を行う。 期間：平成 19 年度～平成 21 年度	1,200,000 (1,500,000)
④	株式会社アマタケ 代表取締役社長 甘竹 秀企 (大船渡市)  北里大学海洋生命科学部 准教授 佐藤 繁	題目：麻痺性貝毒除染効果を持つ新規二枚貝用 飼料の開発 目的：麻痺性貝毒原因プランクトンの発生とそ れに伴う二枚貝の毒化が、三陸地域をは じめ世界各地で頻発している。原因プラ ンクトンの消失後も、二枚貝の多くは数 カ月以上出荷規制値を上回る毒性を維持 するため、二枚貝生産者や流通業者の経 済的損失は深刻なものとなっており、近 年解明されつつある二枚貝の麻痺性貝毒 の代謝機構を応用し、麻痺性貝毒除染効 果を持つ二枚貝用飼料を開発しようとするもの。 期間：平成 21 年度～平成 22 年度	616,000 (770,000)
		基金助成額計：4,216,000 (全体事業費計：5,334,398)	

## (別添資料 3)

## 平成 21 年度県北・沿岸振興支援事業一覧

## (1) 調査研究成果等活用促進事業 3 件

(単位：円)

	申請者	実証のテーマ・取組みの概要	基金助成額 (全体事業費)
①	株式会社エイワ 代表取締役 佐々木 政治 (釜石市)	実証のテーマ：Ni フリーCo-Cr-Mo 合金による生体材料素材製造開発 活用する研究成果：生体用 Ni フリーCo-Cr-Mo 合金の製造方法 <u>東北大学金属材料研究所 教授 千葉 晶彦</u> 取組みの概要：生体適合性に優れた Ni フリーの Co-Cr-Mo 合金の活用による医療分野並びに一般産業分野における製造供給体制の確立を目指し、販路拡大を目指した市場調査活動を行うとともに、低コスト化を見据えた量産化の検討を行うため関係企業から技術的な指導を受ける。	1,200,000 (1,636,630)
②	株式会社小西鑄造 代表取締役社長 小西 信夫 (宮古市)	実証のテーマ：廃棄サーメットを再利用する高硬度肉盛溶接材料の実用化 活用する研究成果：廃棄サーメットを再利用する高硬度肉盛溶接の検討 <u>秋田大学工学資源学部材料工学科</u> <u>教授 麻生 節夫</u> 取組みの概要：廃棄サーメットを有効利用した溶接棒を開発・製品化し新規市場開拓を行うとともに、エコ・リサイクル面での社会的アピールを図る。	1,200,000 (1,579,400)
③	石村工業株式会社 代表取締役社長 石村 眞一 (釜石市)	実証のテーマ：ワカメ高速塩漬装置を利用した水産加工用原料凍結ブロックの解凍時間短縮化技術の開発および実用化 活用する研究成果①：産業化を考慮したワカメおよびコンブの高速塩漬方法の開発および該塩漬で生じる塩水廃棄物の有効利用法の検討 <u>岩手県水産技術センター 主任専門研究員</u> <u>小野寺 宗仲</u> <u>東京海洋大学海洋学部食品栄養化学研究室</u> <u>助教 吉江 由美子</u> ②：ワカメ高速塩漬装置を活用したイカ胴肉冷凍ブロックの解凍時間短縮化の検討 <u>岩手県水産技術センター 主任専門研究員</u> <u>小野寺 宗仲</u> 取組みの概要：ワカメ高速塩漬装置の改良および解凍条件の把握をし、生産現場における解凍方法等の実態調査を行う。	1,200,000 (1,500,000)
		基金助成額計：3,600,000 円 (全体事業費計：4,716,030 円)	

## (2) 観光総合産業化モデル支援事業 5 件

(単位：円)

	取組みの概要		基金助成額 (全体事業費)
①	事業主体	平庭高原体験交流施設利用促進協議会 (久慈市)	1,946,970 (3,095,460)
	連携事業者	「平庭市友の会」(岩手県、久慈市、葛巻町)	
	取組みの概要	平庭高原エリアをフィールドに都市住民と地域住民との交流の促進を図る。 (1) 白樺村村民の募集 (2) 白樺村村民と地域住民との交流会 (3) 白樺村祭りの開催 (4) 白樺の森の整備 (5) 周辺ツアーの開催 (6) 広報誌・DVDの作成	
②	事業主体	二戸市宝を生かした事業実行委員会	3,000,000 (4,500,000)
	連携事業者	二戸市観光協会	
	取組みの概要	エコツーリズムと食をキーワードとした交流人口の拡大及び地域食材提供のしくみづくりに向けた取組み (1) エコツーリズムコースの設定 (2) ガイド養成 (3) モニターツアーの実施 (4) 地域に伝わる料理の提供体制の整備 (5) グルメコンテストの開催	
③	事業主体	みやこ食品加工・販売研究会 (山田町)	1,748,000 (2,623,183)
	連携事業者	研究会会員 31 社	
	取組みの概要	会員が連携して、カタログ販売の実施や昆布等の地域特産の原材料を活用した新たな加工品の開発により販路拡大を図るとともに、消費地において販売会等を実施し、宮古地方の食文化PRによる観光客誘致を図る。 (1) 会員が顧客情報を共有・協力して直販するカタログ販売の実施 (2) 地元の特徴的な農林水産物を使った新商品の開発 (3) 三陸鉄道の主要駅や道の駅における試食会及び店頭販売の実施による観光客誘致の取組み実施	
④	事業主体	特定非営利活動法人久慈地域観光協議会	1,000,000 (1,502,733)
	連携事業者	社団法人久慈市観光物産協会 洋野町観光協会 野田村観光協会 普代村観光協会	
	取組みの概要	久慈地域を訪れる旅行者を地域内で回遊させ観光消費額の向上を図るため、駅を中心とする街なかの商店や施設等からの情報を基に、周辺散策に必要なガイドマップの作成等を行い、街なか観光による地域経済の活性化モデルを創出する。 (1) 地元の商店や施設等から集める情報を基に、街なか観光のコンセプトを地域ごとに決定し、旅行者が街なかを散策するために必要なマップ等のツールを作成 (2) 旅行者の街なか観光を促すための移動手段等を提供するための仕組みづくり (3) 旅行エージェントや旅行者に対する情報発信	
⑤	事業主体	協同組合宮古市魚菜市场	1,448,000 (2,376,233)
	連携事業者	協同組合秋田市民市場 (秋田県秋田市) 有限会社ひろめカンパニー (高知県高知市)	



	<p>取組みの概要</p>	<p>圏域外の市場との相互物産交流による物販増及び観光客増の仕組みづくりを行う。</p> <p>(1) 高知市ひろめ市場及び秋田市民市場との相互物産交流の実施、継続的な取引に向けた検証</p> <p>(2) 旬の食材提供と観光客誘致のためのPR</p> <p>(3) 食材・調理方法等のPR、情報発信</p>	
		<p>基金助成額計：9,142,970 (全体事業費計：14,097,609)</p>	